

## 政務調査による視察研修報告書

報告者 森田明彦  
研修先 兵庫県三田市  
研修日時 平成26年5月16日(金)15:30~17:00  
場 所 三田市 議会事務局 会議室  
応 対 者 健康福祉部こども局こども政策課  
課長 畑 義憲 氏  
〃 主事 石野 寛人 氏  
参加者 森田明彦

### 今回の研修のポイント

全国的に喫緊な課題として少子化問題が挙げられるが、今回の視察研修目的には子どもを産み・育てやすい環境づくりを、との観点から子育て政策では先進事例と思われる三田市の『赤ちゃんの駅』事業について学び、今後嬉野市で子どもを産み、育てたいと多くの人に思ってもらえる様、政策提案の参考にする為に視察研修を行った。

### 内 容

- ・畑 課長挨拶、石野主事の紹介
  - ・はじめに三田市の概要説明
- ① 位置 本市は兵庫県の南東部に位置し、神戸市街地より北へ約 25km のゆるやかな丘陵台地
  - ② 市制施行 昭和 33 年 7 月 1 日、兵庫県下で 20 番目の市として誕生
  - ③ 人口と世帯 総人口 114,788 人、世帯数 43,551 世帯 (H24・8 月末現在)  
(H元年は 52,087 人であったが神戸市・尼崎市のベッドタウンとして急増した)
  - ④ 議会 議員数・条例定数 22 人 (現員数 22 人)
- 三田市『赤ちゃんの駅』設置推進事業について
- 1、「赤ちゃんの駅」の設置目的  
「赤ちゃんの駅」とは、乳幼児を抱える家族が外出中におむつ替えや授乳が出来る施設のことであり、平成 18 年に東京都板橋区で始まって以来、この取り組みは全国的に広がりつつある。  
市役所、公民館などの公共施設のほか、各種スーパー、病院、飲食店など多くの方が利

用する場所が対象となる。

三田市においても、乳幼児を抱える保護者の子育てを応援する取り組みの一環として授乳やおむつ交換が出来る施設を「赤ちゃんの駅」として登録し、その所在を広く周知するとともに設置を促すことにより、安心して外出できる環境づくりを推進する。

## 2、「赤ちゃんの駅」の設置事業内容

### (1) 市内公共施設「赤ちゃんの駅」の整備

授乳室等が未整備であった市役所、市民センター等 17 箇所の公共施設の整備を進めた。

#### ① 経費 約 606 万円

- ・ 設置工事費 約 350 万円
- ・ 備品費(おむつ交換台、授乳椅子等) 約 225 万円
- ・ 需用費(ステッカー、湯沸しポット、消耗品等) 約 31 万円

### (2) 「赤ちゃんの駅」の登録制度の創設

登録制度を設け、登録施設にはステッカーを設置し、ホームページや子育て関連冊子などを通じてPRを図る。

#### ① 登録基準

A 外部の目を気にせず授乳できる設備がある。

B ベビーベッド、おむつ交換台等の設備がある。

上記 A.B の両方又は一方を満たすものを登録の要件とする。

#### ② 登録方法

- ・ 登録を希望する施設は、「登録申請書」を子ども政策課に提出。
- ・ 登録要件を満たすと認めるときは、登録証と表示物(ロゴマークを利用したステッカー)を渡す。
- ・ 登録施設は、表示物を利用者が見やすい場所に掲示する。

※ 各施設の設備について確認を行い、登録要件を満たすと認められる所から登録証と表示物(ロゴマークを利用したステッカー)の配布を開始。

#### ③ 登録施設(平成 26 年 4 月 1 日現在)

公共施設 30 施設(市 28 施設 県 2 施設)・民間 12 施設=計 42 施設

詳細は別紙「三田赤ちゃんの駅」マップ参照

### (3) ロゴマークについて

「赤ちゃんの駅」が広く市民に認知され、親しんで頂けるよう独自のロゴマークを市広報誌や市ホームページでの周知、また、募集チラシを市内、各公共施設、学校関係等広く設置し、28 人より 37 作品の応募があった。

このうち、第一次選考として子ども局職員による書類選考等により 10 点選定し、第二次選考として、他課も含めた若手職員による市内検討会で、さらに 6 点に絞った。

6点の候補作品から、市民投票(市ホームページ、公共施設により投票箱設置)により決定した。

### 3、子育て家庭への周知について

登録施設の情報はホームページや子育て関連冊子へ掲載し周知を図っている。

4、今後についても、登録施設を広げ、子育て中の家族が安心して外出を楽しめる環境づくりを進めるとともに、社会全体で子育てを支援する気運を高めることも目的として事業を進めていく。

## 視察研修の感想

冒頭にも述べたように全国的な課題である少子化問題は、もう待った無しの状態であると考える。

国や県でも問題視はしているが、特効薬が見出せない中、当嬉野市としては地方からの挑戦として、思い切った独自の対策を講じる必要がある。

子どもを生み・育てる事に関してのトータルなケア・サービス環境および支援の充実、三田市が取り組む「赤ちゃんの駅」等施設の充実、また子育てハンドブック等の子育てに関する情報の充実等、他市の追随を許さない嬉野市独自のサービス・アイデアを考えてもらいたい。

人口減少、少子化の下降線が緩やかなカーブに、そして最終的には少しでも上昇するように期待するところである。